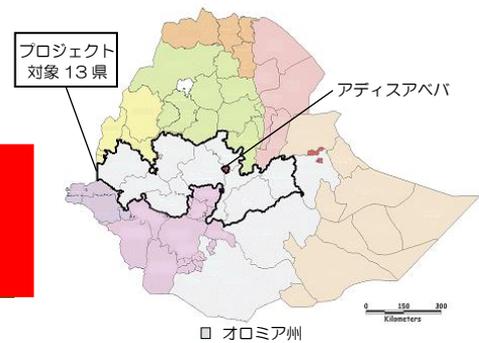




Ho! ManaBUしんぶん

2011.7.11 No.32

子どもの笑顔に会うために！



3,600人以上の教員、住民が参加

～「Discover our school」研修中間報告～

「Discover our school 研修 (DOS 研修)」は、教員が学校環境について調査・分析するパート1、その結果をクイズを通じて地域住民と共有し、学校運営改善について話し合っていくパート2の2つのプロセスからなる研修です。研修の様子や成果については、これまでもお伝えしてきましたが(関連記事: しんぶん 27号、28号、31号)、学校が7月から長い休みに入り、ひと区切りつくことから、今月号のしんぶんでは、クラスター・リソース・センター (CRC) から6月末までに郡・特別市教育事務所 (WEO/STEO)、県教育事務所 (ZEO) を通じて、オロミア州教育局 (OEB) 内にあるプロジェクトオフィスに提出された研修報告書や進捗報告書をもとに、この半年の研修の成果と課題について振り返りたいと思います。

まず、研修の成果から。パート1では、「自分の学校の状況について理解が深まった」ことが最も大きな成果として挙げられるでしょう。学校によっては調査・分析に夜8時まで学校に残って徹底的に話し合ったところもあります。また、中心校で行われるパート1に衛星校の校長や教員と一緒に参加したり、衛星校で個別に行ったりしている学校も散見し、クラスター内で自主的にDOS研修の普及に努めていることがわかります。次に、パート2では、「学校が抱える課題を楽しく学ぶことができる」「学校設備、中途退学、女性教員の配置状況など学校運営に必要な基本的な項目を住民が学べる」「住民のオーナーシップを高めるのに大変役に立っている」などの感想が多く挙げられています。

一方、研修実施にあたっての難しさとしては「住民には、チャート・シート(10項目の学校環境の現状を示した棒グラフのようなもの)の見方がわかりづらい」「学校行事が多く、なかなか研修が実施できない」「住民の研修への参加奨励が難しい」などの指摘がありました。そのほか、「パート1の調査や分析は住民も巻き込んだ方がよい」「研修教材をうまく使えるようになりたい」「研修の時間配分にもう少し気をつけたい」などの振り返りや、「研修の成果や好事例をどのように他の学校と共有したらよいのか」といった質問も

出されています。

6月末までに提出された報告書によると、パート1は56回、パート2は37回実施されており、パート1には約1,100名の教員が、パート2には、教員、住民、児童、WEO/STEOの行政官など約2,600名が参加しています。ですが、研修を行っていても報告書を作成していない、あるいはWEO/STEOやZEOレベルで報告書が止まったままになっているケースも相当数あると考えられ、実際には研修実施回数や参加者数はこの数字をはるかに上回ると予想しています。



DOS研修は、住民の啓発に重点を置いた1年目の研修と異なり、教員が学校を取り巻く環境の調査や分析に取り組むことで、

学校環境に対する問題意識の深化や、調査・分析力の向上につながっています。そういった意味では、パート1だけでもDOS研修の効果は相当高いのではないかと感じています。プロジェクトでは今後もモニタリングを続けると共に、提出された報告書の内容をまとめ、DOS研修の改訂に活用する予定です。

計画って何だろう？

～計画作りの視察からわかったこと～

プロジェクトでは、DOS研修の報告書分析を進めるかわら、「啓発」「分析」に続く3つ目のステップとしての「計画策定」をテーマにしたHo! ManaBU研修の準備を進めています(関連記事: しんぶん 29号)。この一環として、実際に学校レベルでどのように学校計画が作られているのかを探るため、手分けをして北ショア県、東ショア県、南西ショア県の計4校の学校(南西ショア県の学校は後から追加)で、4月から聞き取り調査や計画策定会議の視察を続けてきました。訪問校では、7月第1週目までに来年度の計画が関係者に承認され、計画作りが終わりました。各校での調査結果は次の通りです。

*Ho! はオロモ語で Hoggansa (運営) の最初の二文字、ManaBU は Mana Barnoota Ummataa (コミュニティの学び舎) の略で、本プロジェクトが支援する地域社会に根ざした小学校運営のことです。

- **計画策定の流れ**：各校共に、今年度の活動の振り返り⇒来年度の活動の検討⇒予算の算出⇒地域住民に発表し、計画の承認を得る、という基本的な流れはほぼ共通している。
- **参加者**：計画策定委員会が存在し、教員のほか、住民代表、カバレ教育訓練事務所（KETB）、児童代表などで構成される。ただし、実際の計画策定者は学校である場合が多い。委員会では、学校側が発表する計画案に対してメンバーが意見を出したり、質問をしたりする程度に留まっている。
- **活動項目**：計画に入れるべき項目が非常に多い。アクセス拡充や質の向上から、道徳教育や課外活動の充実化、好事例の共有に至るまで10以上の分野に3~4つの活動がそれぞれ設定されている。ただし、これらは、計画策定ガイドラインに沿って取り込まれたもので、必ずしも学校が必要と思って設定している活動とは限らない。
- **活動実施時期**：1年間を月ごと、四半期ごとに分け、各活動をどの時期に行うか大まかに決めている。
- **予算**：設備の修繕や新規購入についての経費算出は経験値に基づく大ざっぱなものが多い。財源は、学校の敷地で栽培する木材や換金作物、課外活動で作った手芸品の販売で得た収入、学校交付金、住民からの寄付金、KETB や地元で活動する NGO からの支援に頼っている。ただし、学校の収入創出活動で得られる収入を除いては、入金時期やその額については不確定要素が多い。



学校年間計画の一部。カーボン紙を使って写しを作り、関係機関にも提出。

各校での調査結果を通じて強く感じるのは、基本的な流れに沿った計画作り自体はできているけれども、一方で、その目的が、計画を実行することではなく、計画作りそのものになってしまうということです。その結果、活動の必要性や、設定された目標値の妥当性についてはあまり話し

合われず、多くの活動の単なる列挙で終わってしまっています。また、活動を行うための一定の予算は見込めても、それがいつ、どのくらい使えるのかわからない、という状況も具体的な計画作りの足かせになっているのではないかと感じます。もっとも、学校にしてみれば、予算があろうがなかろうが、ガイドラインに沿って計画を作り、WEO/STEO に提出しなければ

ならないというプレッシャーもあり、このあたりをどのように支援していくかはなかなか難しいところです。エチオピア人が、計画を実現させ、それによって達成感を味わえるようにするにはどんな研修がよいのか、ただ効率性を目指す日本人的発想から少し離れて、考えていく必要がありそうです。



ガラトーマ、フィラ!

～ 野邊節専門家が帰任されました～

住民参加型基礎教育改善プロジェクト（ManaBU）、そしてHo! ManaBUと、2つのJICAプロジェクトのチーフリーダーとして、5年余りエチオピアの教育改善に従事されてきたフィラ（オロミア語で「親戚」の意）こと野邊節専門家が7月1日に帰任しました。

離任の前々日には、OEBのダバ・ダバレ局長主催による送別会が行われ、同局長やマルガ副局長から、住民参加による初等教育改善にかかる、これまでのフィラの取り組みに対する感謝の意が表されました。

また、翌日（離任前日）開催された帰国報告会では、フィラからこれまでのプロジェクト活動の報告がされ、Ho! ManaBU オリジナルソング熱唱（フィラ作詞・作曲・演奏）の後、プロジェクトの持続性や隊員との連携などについての質疑応答や参加者との意見交換が行われました。直前の連絡にもかかわらず、JICA 事務所関係者、専門家、隊員の皆さんなど大勢の皆さんにご参加いただきました。この場を借りてプロジェクトより改めてお礼を申し上げます。

文字通り私達の親戚でもあり、兄貴分でもあり、そして、素晴らしい仲間であるフィラは、エチオピアを離れましたが、同僚のエチオピア人曰く「肉体は離れてしまったけれど、皆の心はいつも一緒」なのだと思えます。エチオピアでのお仕事、本当にお疲れさまでした。フィラ、ガラトーマ！（「ありがとう」）



OEB のダバ局長主催の送別会にて。野邊節専門家（中央）。ダバ局長（左）、マルガ副局長（右）と共に。

発行元：JICA エチオピア住民参加型初等教育改善（Ho! ManaBU）プロジェクト

C/O JICA Ethiopia, P. O. Box 5384, Addis Ababa, Ethiopia <http://www.jica.go.jp/project/ethiopia/0702155/index.html>

Tel & Fax: +251-11-3718022 E-mail: hoggansa@ethionet.et Ho! ManaBU しんぶんやプロジェクトへのご意見・ご感想お待ちしております。